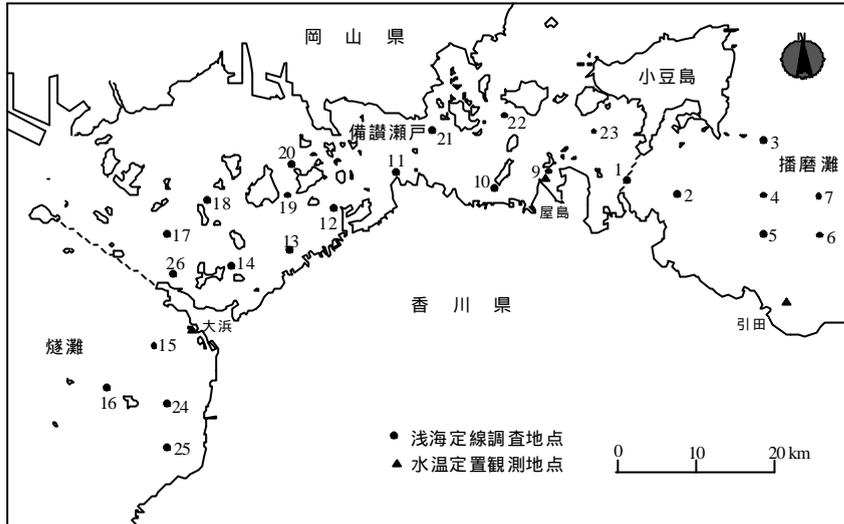


香川県漁海況速報 平成14年8月 (H14- 5号)

香川県水産試験場

1. 海況

1) 観測地点



2) 浅海定線調査

(1) 調査日

平成14年8月5日(播磨灘)、1日(備讃瀬戸、燧灘)

(2) 水質概況

平年と比較すると、水温は「やや高めから著しく高め」、塩分は「やや高め」、透明度は「やや低めから平年並み」、溶存酸素は「やや低めから平年並み」であった。

		水温 (°C)			塩分 (PSU)			透明度	溶存酸素 (ml/l)	
		表層	10m層	底層	表層	10m層	底層	(m)	表層	底層
播磨灘	7地点平均値	27.3	26.2	23.1	31.8	32.0	32.2	10.2	4.24	3.11
	平年値	25.4	24.0	22.4	31.4	31.5	31.7	8.1	5.24	3.46
	平年偏差	1.9	2.1	0.7	0.4	0.4	0.5	2.1	-1.00	-0.35
	状況	かなり高め	著しく高め	やや高め	やや高め	やや高め	やや高め	やや高め	やや低め	平年並み
備讃瀬戸	14地点平均値	26.7	26.0	25.6	32.0	32.2	32.2	6.0	4.22	3.77
	平年値	25.1	24.5	24.1	31.5	31.5	31.8	5.3	4.51	4.22
	平年偏差	1.6	1.5	1.5	0.5	0.6	0.4	0.7	-0.29	-0.45
	状況	かなり高め	かなり高め	かなり高め	やや高め	やや高め	やや高め	平年並み	平年並み	やや低め
燧灘	4地点平均値	29.1	25.2	22.9	32.2	32.4	32.6	8.3	4.88	2.59
	平年値	27.5	23.7	21.6	31.6	31.9	32.2	10.5	5.09	3.37
	平年偏差	1.6	1.5	1.3	0.6	0.5	0.4	-2.2	-0.21	-0.78
	状況	やや高め	かなり高め	かなり高め	やや高め	やや高め	やや高め	やや低め	平年並み	やや低め

平年偏差 = 平均値 - 平年値

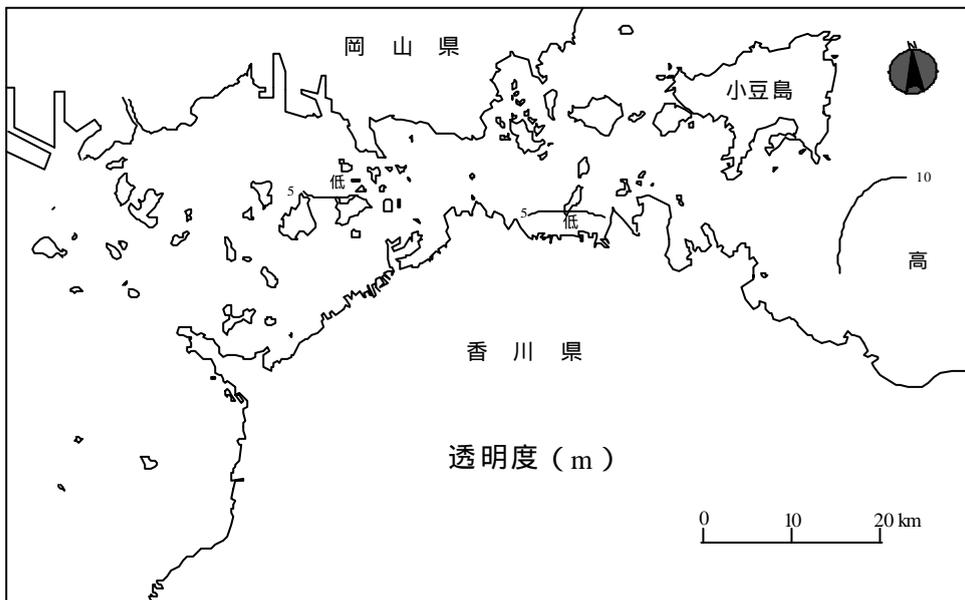
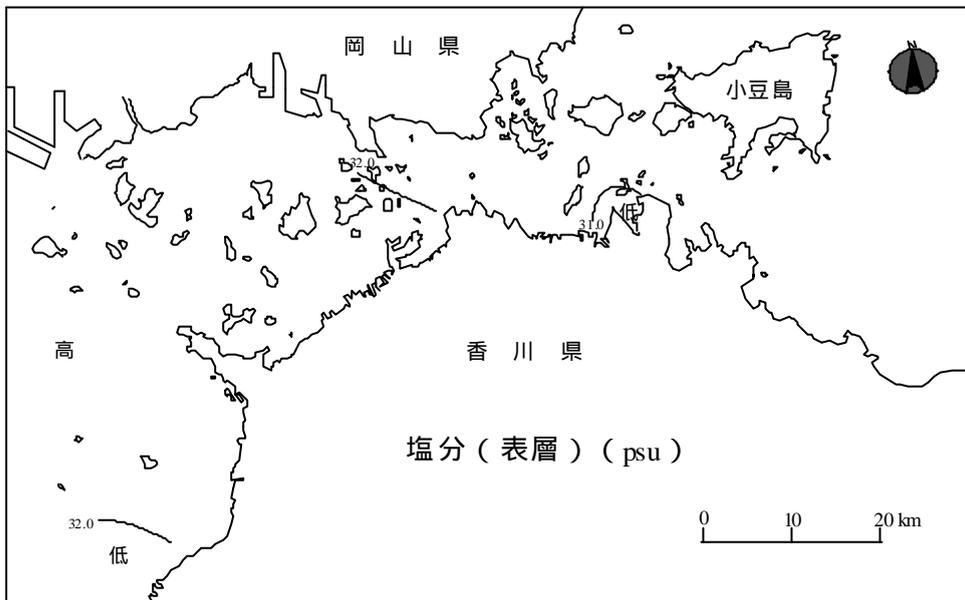
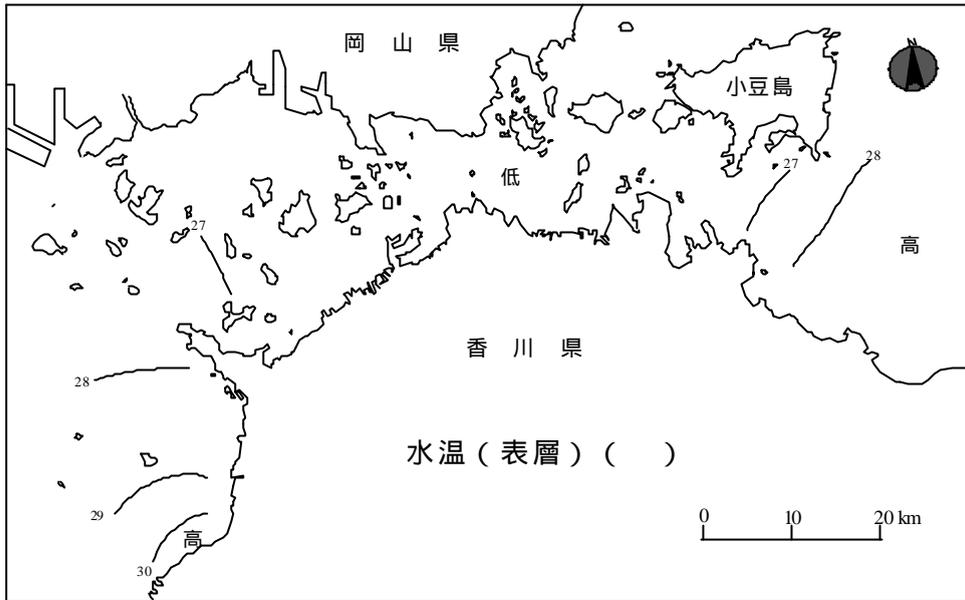
平年値の算出期間 水温及び塩分：昭和47(1972)～平成8(1996)年度

透明度：昭和58(1983)～平成8(1996)年度

溶存酸素：昭和55(1980)～平成9(1997)年度

水温は、毎月1日の値に補正。

平年並み	0	平年偏差 < 0.6
やや高め(やや低め)	0.6	平年偏差 < 1.3
かなり高め(かなり低め)	1.3	平年偏差 < 2.0
著しく高め(著しく低め)	2.0	平年偏差
		: 標準偏差



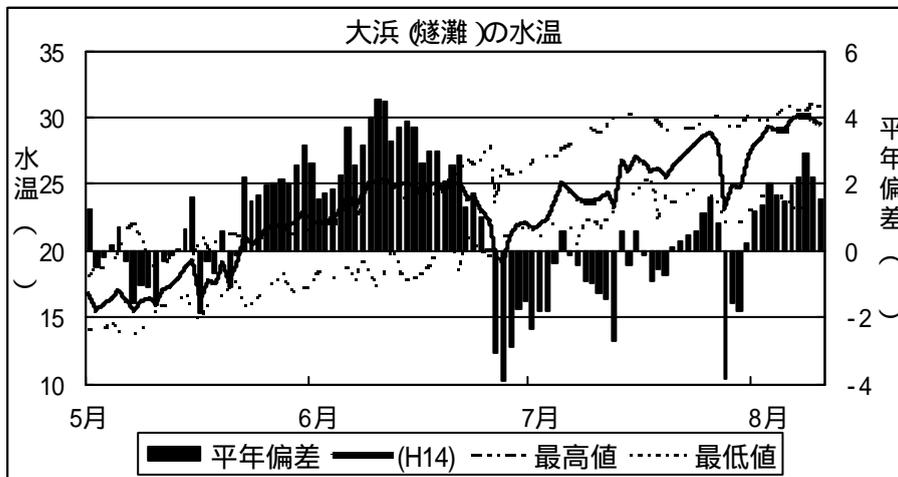
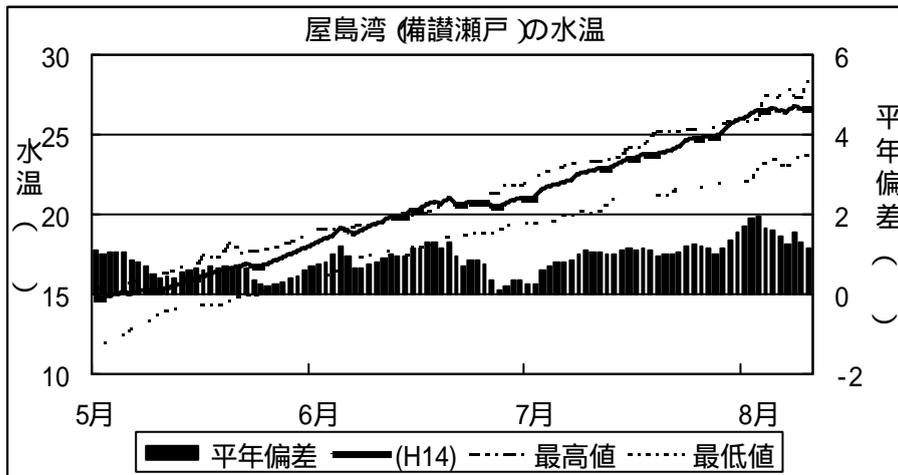
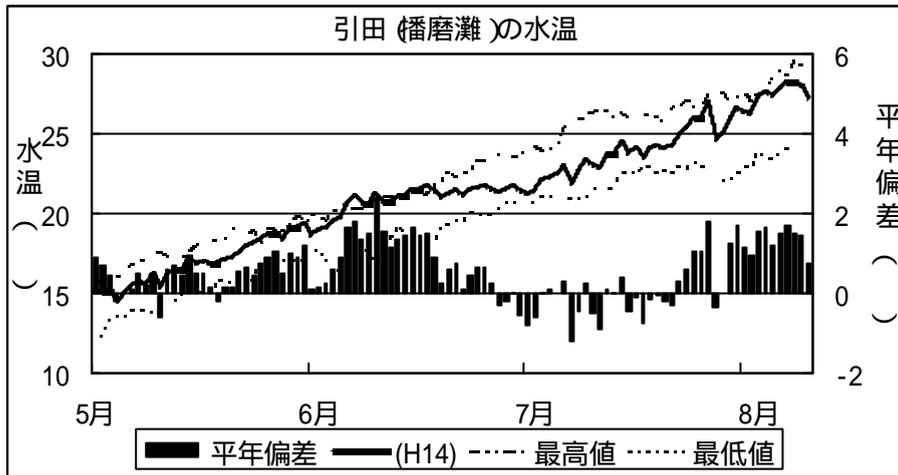
2) 定置観測(水温)

播磨灘(引田): 6月下旬から平年偏差が0.3 ~ -1 の範囲で推移していたが、7月下旬から上がりはじめ8月に入ってから1 前後で推移している。

備讃瀬戸(屋島): 7月中旬に1 前後で推移していた平年偏差が7月下旬から8月上旬にやや大きくなったが、中旬には1 前後で推移している。

燧灘(大浜): 6月下旬には大きく低下し、7月には0.7 ~ -2 前後で推移していた平年偏差が8月に入ってから2 前後で推移している。

平年値の算出期間 引田及び大浜: 平成元(1989) ~ 平成12(2000)年
屋島: 昭和50(1975) ~ 平成12(2000)年



3) 赤潮

播磨灘：7月中下旬南西部で *Noctiluca scintillans*、7月中旬南西部で *Mesodinium rubrum*、7月下旬北部から西部にかけて *Chattonella*(区分不能)の赤潮の発生があった。

備讃瀬戸：7月下旬、東部で *Chattonella*(区分不能)、西部で *Noctiluca scintillans* の赤潮の発生があった。

燧灘：8月上旬南部でケイ藻類の赤潮の発生があった。

4) 卵稚仔

調査日：平成14年8月5日(播磨灘)、1日(備讃瀬戸、燧灘)

出現量

個(尾)/曳網

	カタクチイワシ		マイワシ		サワラ		その他の魚類	
	卵	稚仔	卵	稚仔	卵	稚仔	卵	稚仔
播磨灘平均	134.88	156.25	0.00	0.00	0.00	0.00	9.25	21.25
備讃瀬戸平均	8.47	10.40	0.00	0.00	0.00	0.00	29.27	11.67
燧灘平均	63.00	35.71	0.00	0.00	0.00	0.00	13.57	5.57
総平均	54.90	55.20	0.00	0.00	0.00	0.00	20.27	12.80

対平年値

	カタクチイワシ		マイワシ	
	卵	稚仔	卵	稚仔
播磨灘平均	1227.4%	6030.7%	-	-
備讃瀬戸平均	1034.8%	2172.2%	-	0.0%
燧灘平均	389.8%	731.4%	-	-
総平均	772.1%	2667.1%	-	0.0%

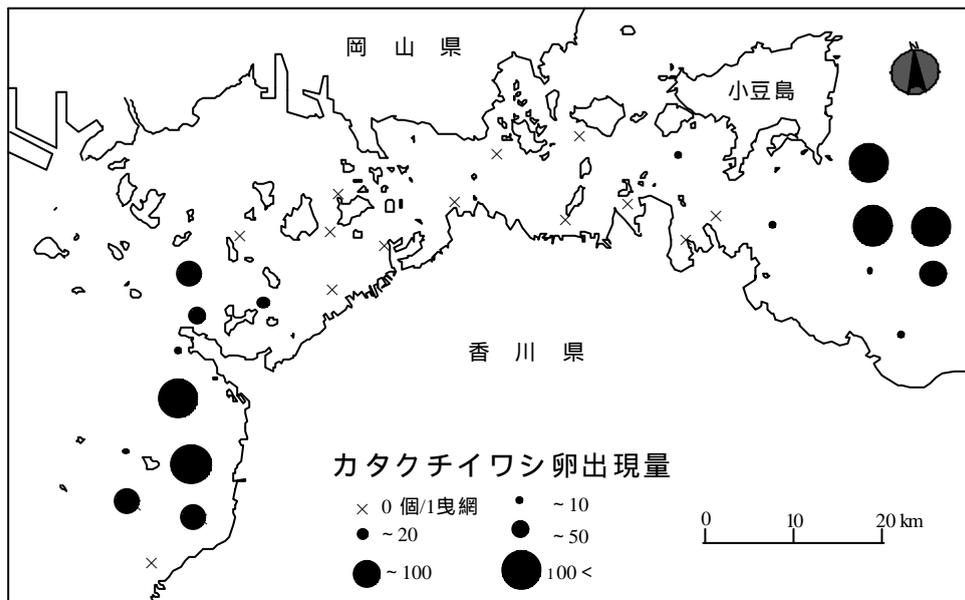
- : 平年値が0の場合を示す。

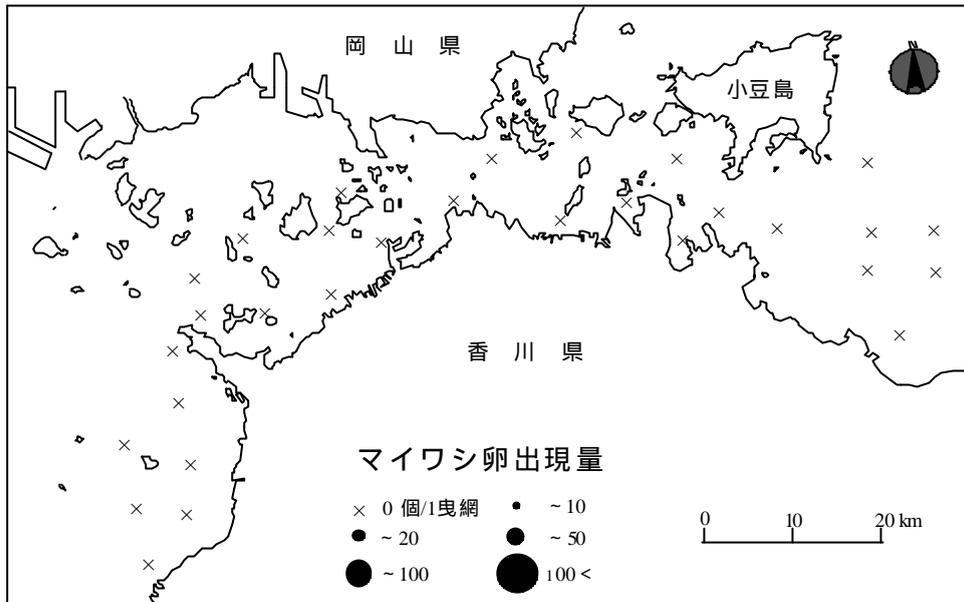
平年値の算出期間

カタクチイワシ：昭和55(1980)～平成12(2000)年度

マイワシ：平成5(1993)～平成12(2000)年度

マイワシの卵稚仔は、全ての調査地点で採集されなかった。





2. 漁況

7月からの漁況は次のとおりである。

海 域	漁 況
播 磨 灘	<p>底曳網では主に小型エビ類、テナガダコ、シャコ、イボダイ、コウイカ類が漁獲されているが、全般的に低調である。</p> <p>桁網ではマアジ（当歳魚）が好調である。</p> <p>7月のシラスの船曳網は、6月同様不漁で休漁状態である。</p>
備 讃 瀬 戸	<p>底曳網では主にウシノシタ類、メイタガレイ、マダコ、マアナゴ、小型エビ類が漁獲されているが、特に、小型のマダコ（200～300gサイズ）が多い。</p> <p>庵治の込し網はカタクチシラス漁が6月に続き、7月も好調で20日頃まで漁獲があった。</p> <p>マナガツオの流し刺網は前年を下回って不漁である。</p>
燧 灘	<p>底曳網では主に小型エビ類、メイタガレイ、シャコ、テナガダコ、マダコが漁獲されている。</p> <p>7月のイワシ機船船曳網は、小、中羽主体で漁獲量は前年の約1.5倍と好漁である。</p>